加賀電子株式会社

加賀電子株式会社
第51期（2019年3月期）
決算説明会資料

2019年5月23日

加賀電子株式会社

目次

● 2019年3月期決算概要

2019年3月期決算サマリー	P-　3
業績ハイライト/事業部門別概況	P-　4～10
バランスシート/キャッシュフロー	P-11～15
2020年3月期業績予想	P-16～20

● 加賀電子グループの成長シナリオ

中期経営計画 2021アウトライン	P-22～26

● 参考情報

事業ポートフォリオ	P-28
EMSビジネス	P-29
事業部門別業績　四半期推移	P-30～31
為替レート	P-32

第51期（2019年3月期）

決算概要

加賀電子株式会社
常務取締役　川村　英治

2019年3月期決算　サマリー

2019年3月期 実績	● ４Qより**富士通エレクトロニクスを連結** ● 営業利益・経常利益は計画にあと一歩届かずも、**売上高・当期純利益は過達** ● **当期純利益は、「負ののれん代」「税軽減」**もあり**13期ぶりに最高益更新** ● 「製品切替えに伴う生産調整」「海外新工場立上げ費用先行」「一部部材の需給逼迫」「中国景気減速に伴う需要減」の**逆風の中、概ね及第点の着地**
主なセグメントの 概況	● 電子部品事業：**EMSビジネスは車載向け、空調向けが順調**に推移 部品販売ビジネスは低調に推移 ● 情報機器事業：住宅向け家電販売ビジネスは低調も、**商業施設向けにLED設置ビジネスが順調**に推移
株主還元	● 配当方針：配当性向25%～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する ● 期末配当は、**特別配当5円を加えて45円。年間配当は、10円増配の80円**

2019年3月期　業績ハイライト

（単位：百万円）

	2018/3期 実績	2019/3期 前回予想	2019/3期 実績	前年比	予想比
売上高	235,921	290,000	292,779	24.1%	1.0%
売上総利益	32,498	35,500	35,546	9.4%	0.1%
同利益率（%）	13.8%	12.2%	12.1%		
販売費及び一般管理費	24,379	27,800	27,976	14.8%	0.6%
営業利益	8,119	7,700	7,570	-6.8%	-1.7%
経常利益	8,740	8,000	7,859	-10.1%	-1.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,490	7,300	8,014	23.5%	9.8%
EPS（1株当たり当期純利益）	236.58	266.04	292.07	–	–
ROE	9.5	9.9	10.9	14.7%	10.1%

2019年3月期　セグメント別業績

（単位：百万円）

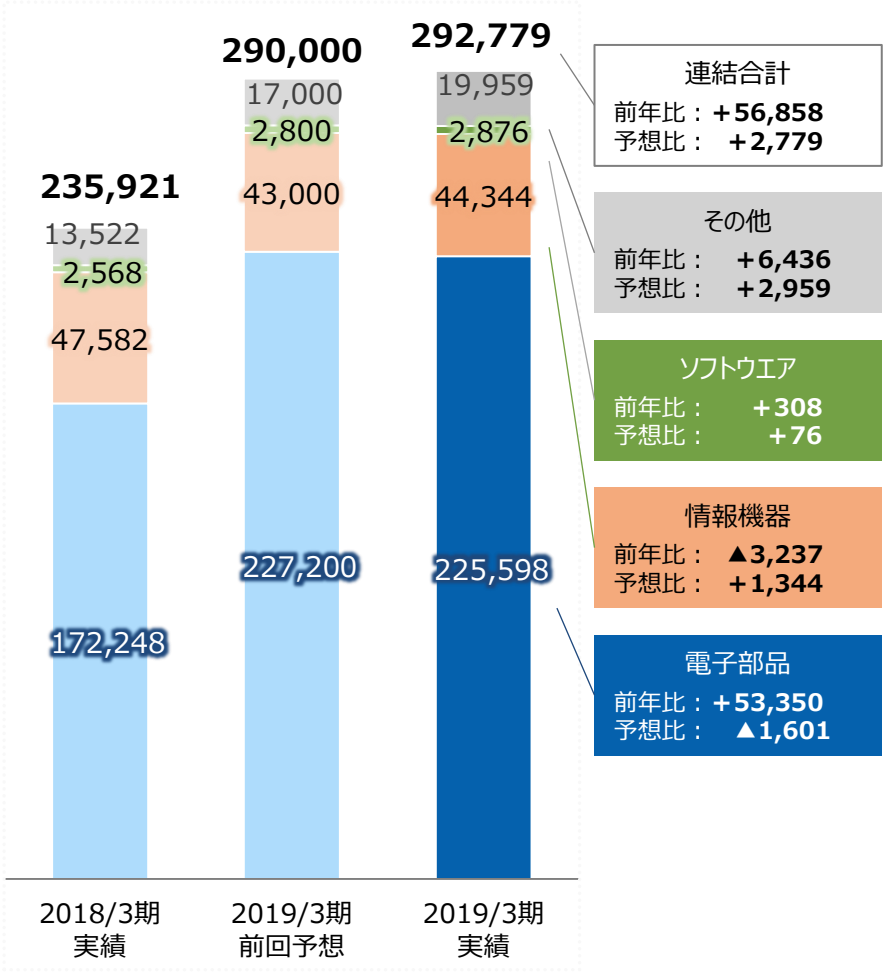
		2018/3期	2019/3期	2019/3期		
		実績	前回予想	実績	前年比	予想比
電子部品	売上高	172,248	227,200	225,598	31.0%	-0.7%
	セグメント利益	5,312	5,200	4,761	-10.4%	-8.4%
情報機器	売上高	47,582	43,000	44,344	-6.8%	3.1%
	セグメント利益	2,202	1,700	1,906	-13.4%	12.1%
ソフトウェア	売上高	2,568	2,800	2,876	12.0%	2.7%
	セグメント利益	172	300	247	43.6%	-17.7%
その他	売上高	13,522	17,000	19,959	47.6%	17.4%
	セグメント利益	308	500	490	59.1%	-2.0%
合計	売上高	235,921	290,000	292,779	24.1%	1.0%
	セグメント利益	8,119	7,700	7,570	-6.8%	-1.7%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

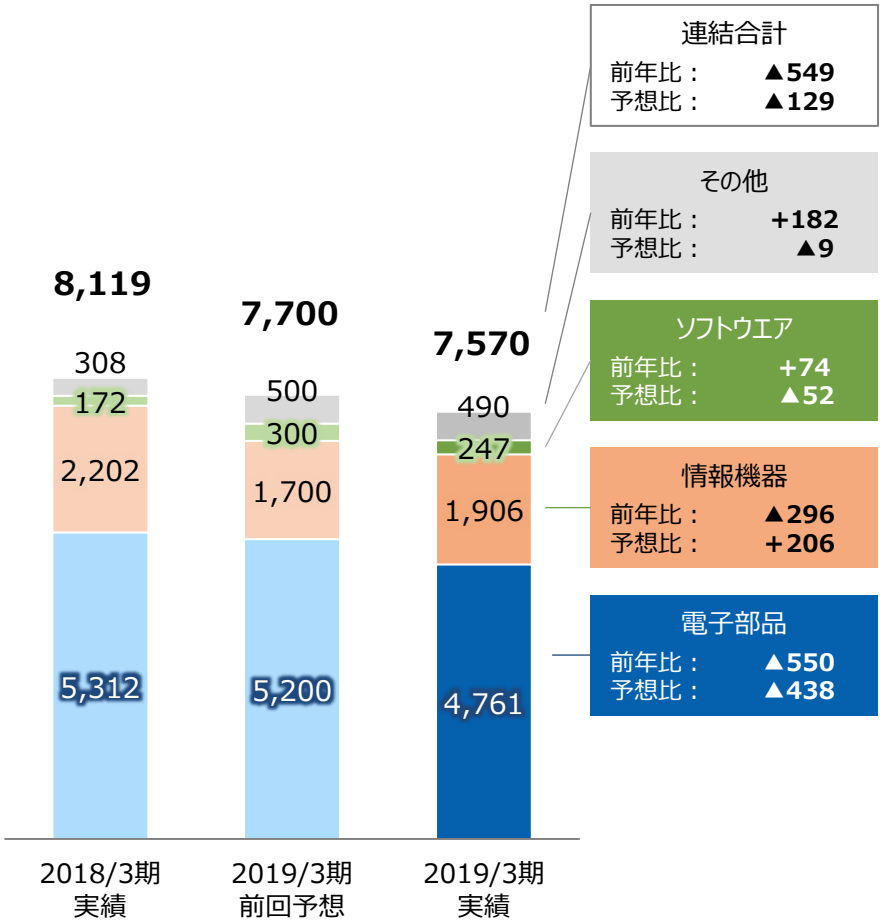
2019年3月期　事業部門別業績

（単位：百万円）

売上高



営業利益（セグメント利益）

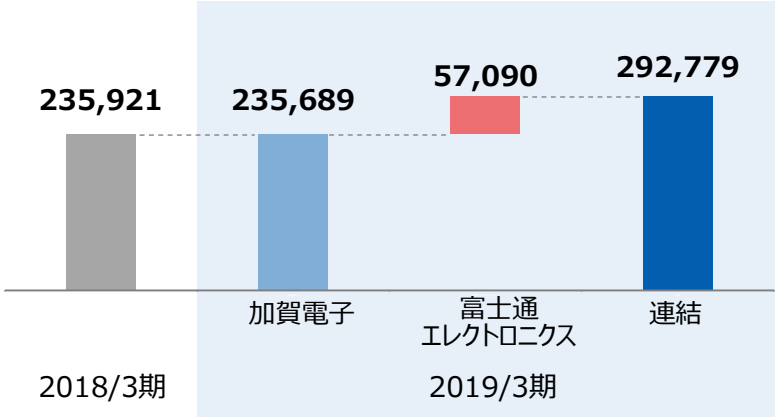


注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2019年3月期　富士通エレクトロニクス　グループ会社化の影響

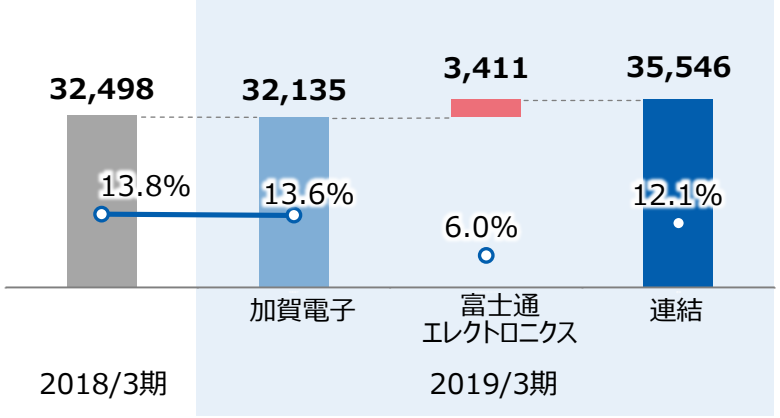
売上高

4Qより富士通エレクトロニクスを連結化、売上は大幅増



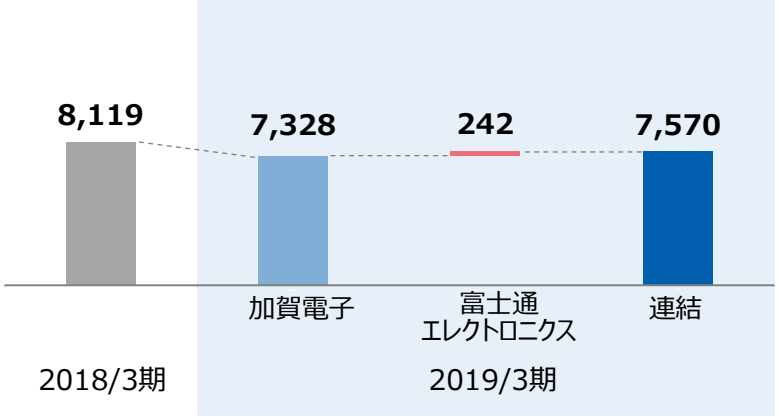
売上総利益 / 売上総利益率

連結では売上総利益率低下も、加賀電子単独では前年並み



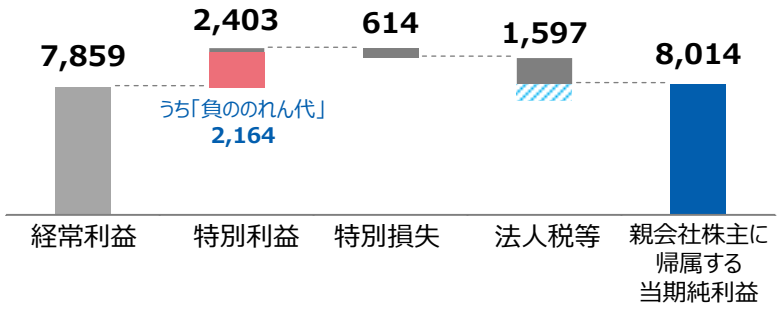
営業利益

富士通エレクトロニクス連結化で加賀電子減益は補えず



親会社株主に帰属する当期純利益

連結化に伴う「負ののれん代」、連結納税に係る特殊要因あり

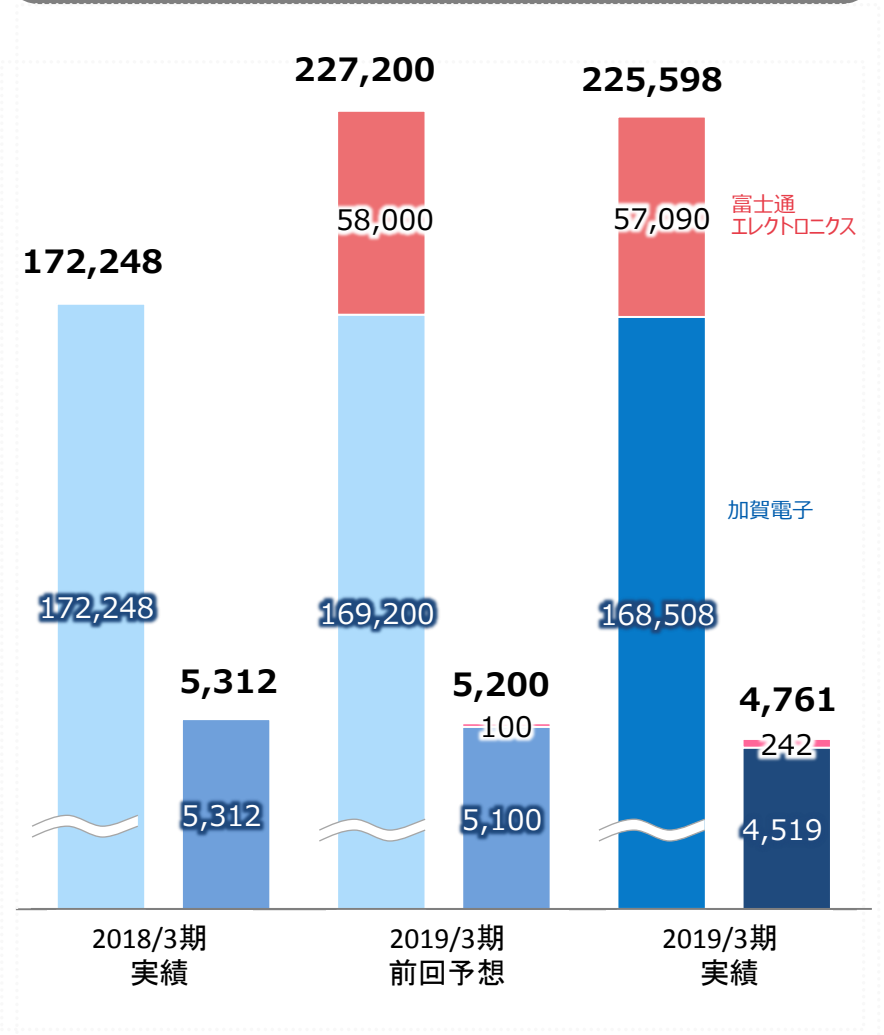


※単位：百万円

2019年3月期業績：電子部品事業

（単位：百万円）

売上高・セグメント利益



前年比

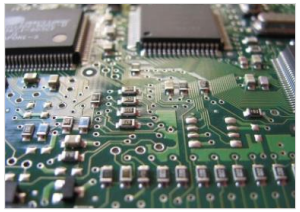
- 売上高 ▶ **+53,350百万円** **31.0%増**
- セグメント利益 ▶ **▲550百万円** **10.4%減**

前回予想比

- 売上高 ▶ **▲1,601百万円** **0.7%減**
- セグメント利益 ▶ **▲438百万円** **8.4%減**

・富士通エレクトロニクスの子会社化により売上が大幅増加
・EMSビジネスは車載向け、空調向けが順調

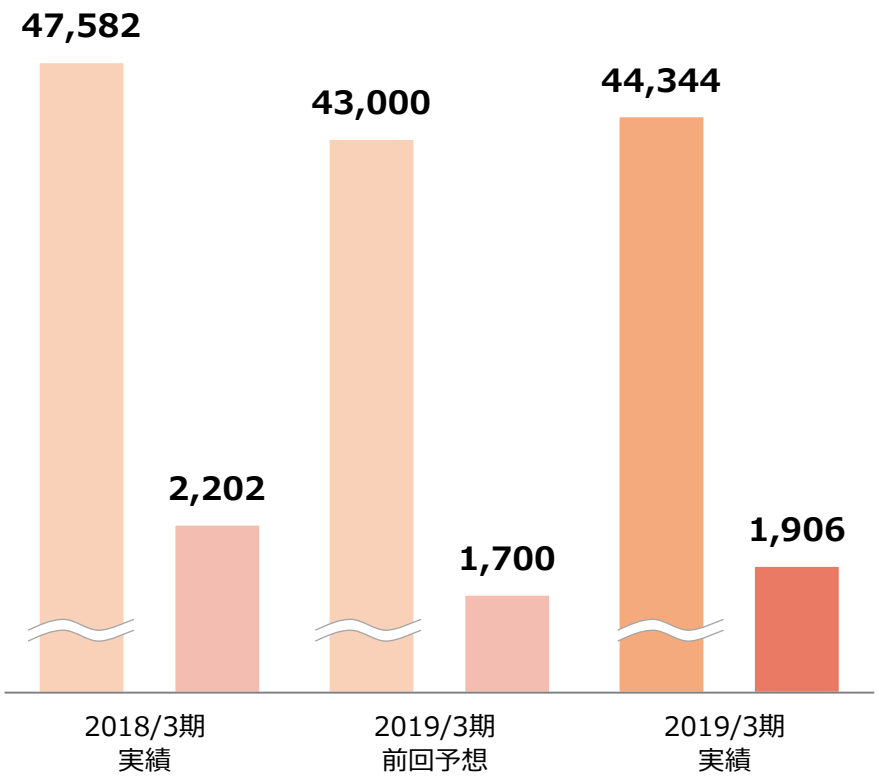
・部品販売ビジネスは家電製品向け主要顧客における生産調整の影響などにより低調



2019年3月期業績：情報機器事業

（単位：百万円）

売上高・セグメント利益



前年比

● 売上高	▲3,237百万円	6.8%減
● セグメント利益	▲296百万円	13.4%減

前回予想比

● 売上高	＋1,344百万円	3.1%増
● セグメント利益	＋206百万円	12.2%増

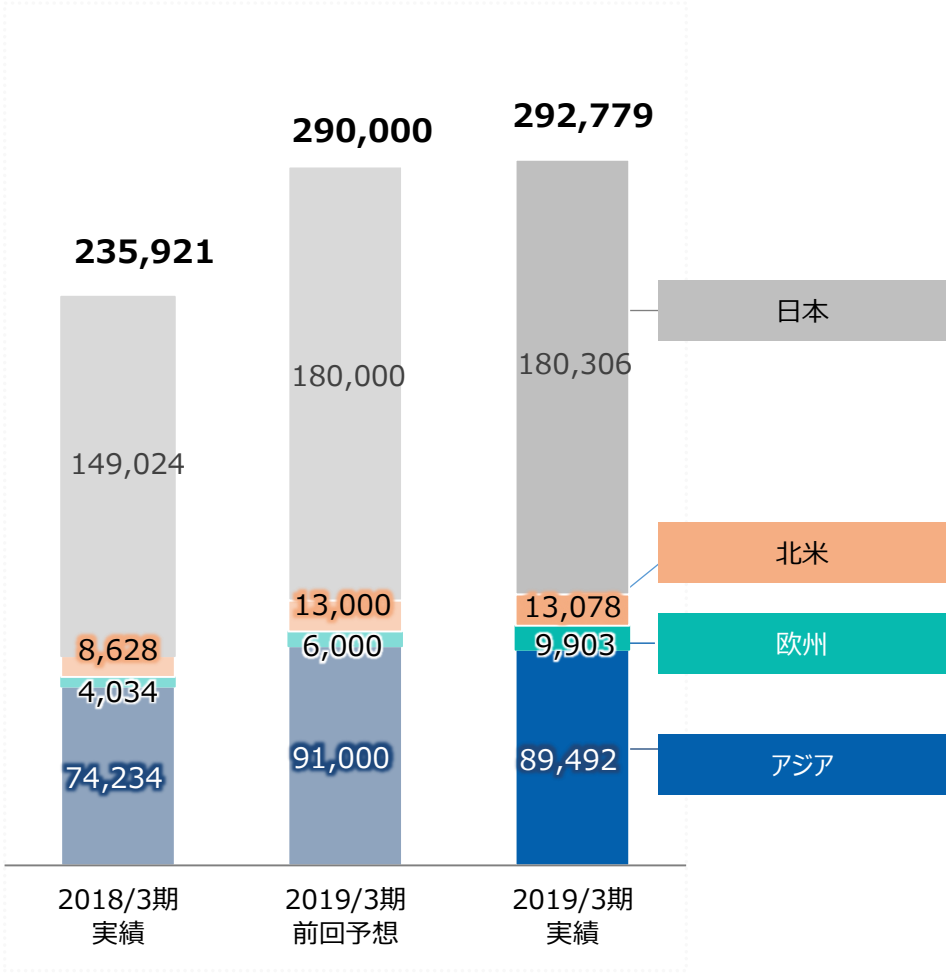
・商業施設向けLED設置ビジネスが順調

・住宅向け家電販売ビジネスは販売先の納期調整により減少
・PC販売は個人向け堅調も法人向けは低調

＜参考＞2019年3月期業績：地域別売上高

（単位：百万円）

売上高



前年比

● 日本	＋31,281百万円	21.0%増
● 北米	＋4,449百万円	51.6%増
● 欧州	＋5,869百万円	145.5%増
● アジア	＋15,258百万円	20.6%増

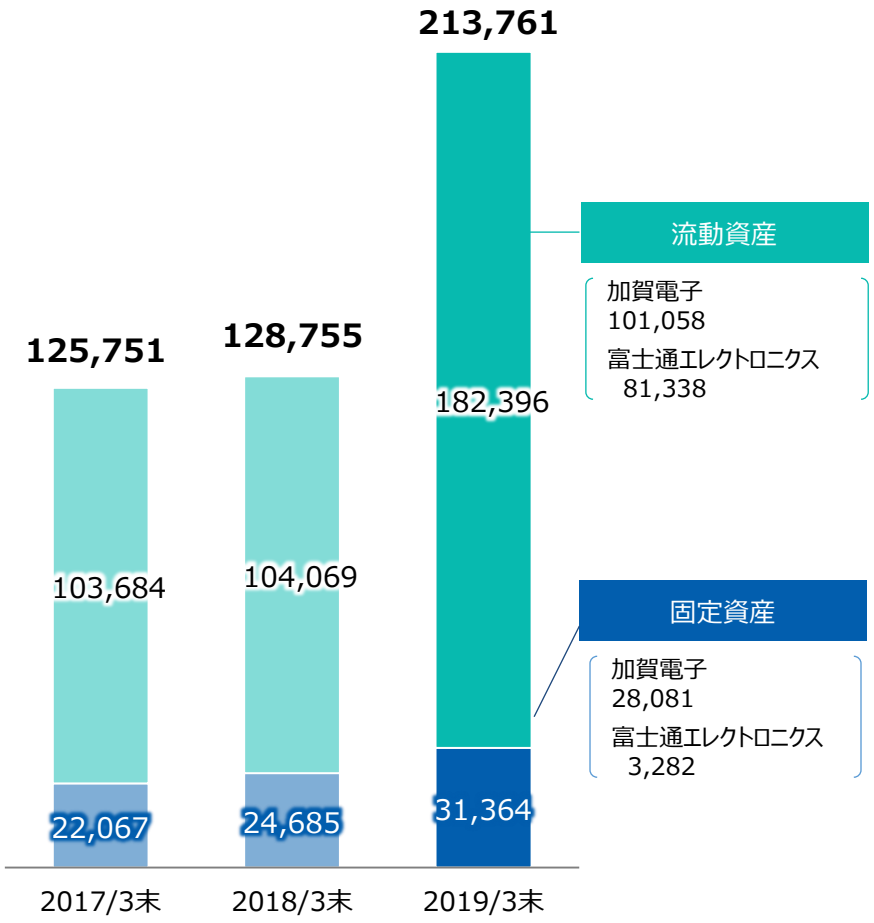
前回予想比

● 日本	＋306百万円	0.2%増
● 北米	＋78百万円	0.6%増
● 欧州	＋3,903百万円	65.1%増
● アジア	▲1,508百万円	1.7%減

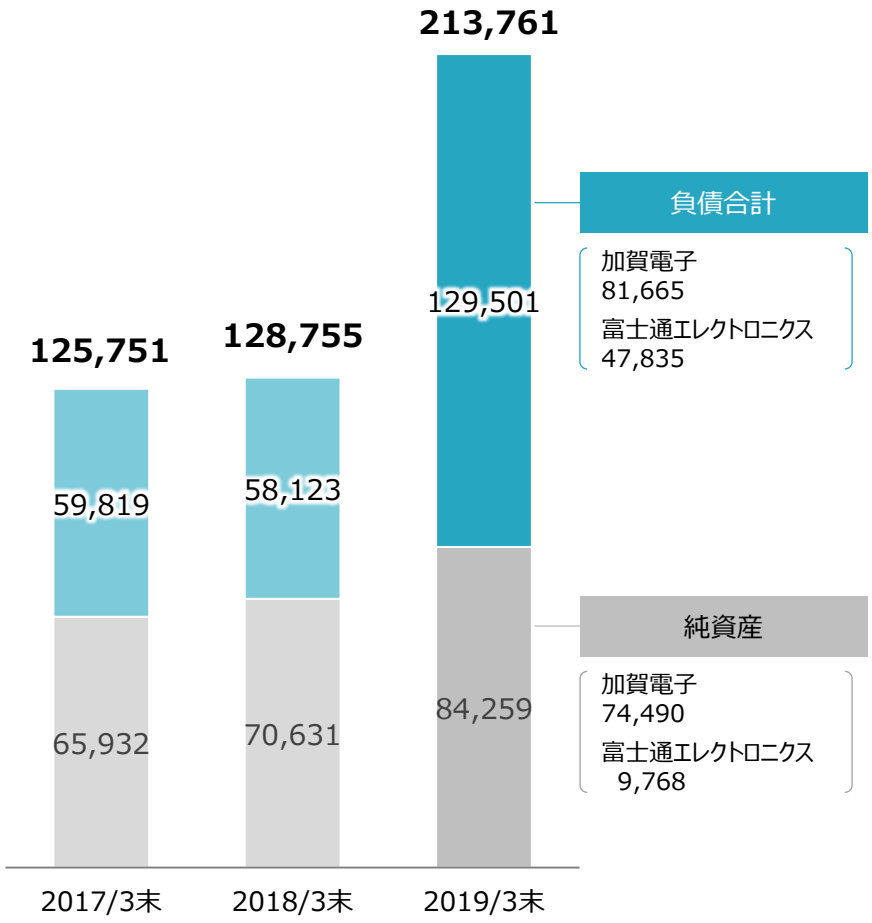
財政状態計算書主要項目

（単位：百万円）

資産



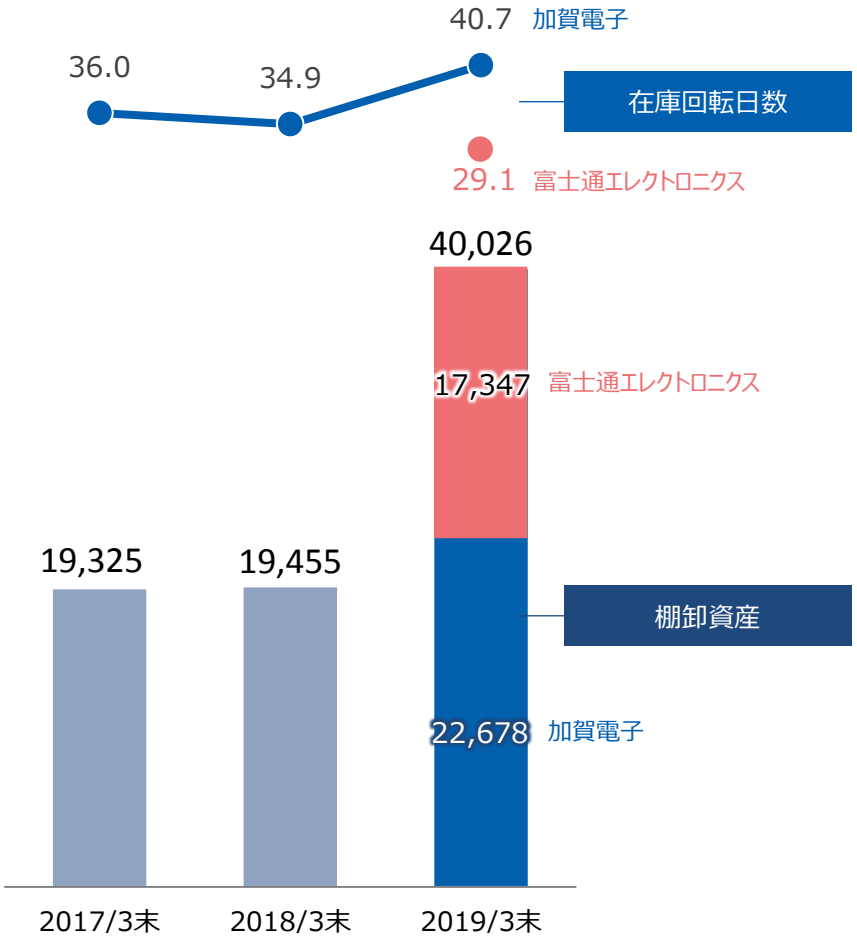
負債・純資産



財政状態計算書主要項目

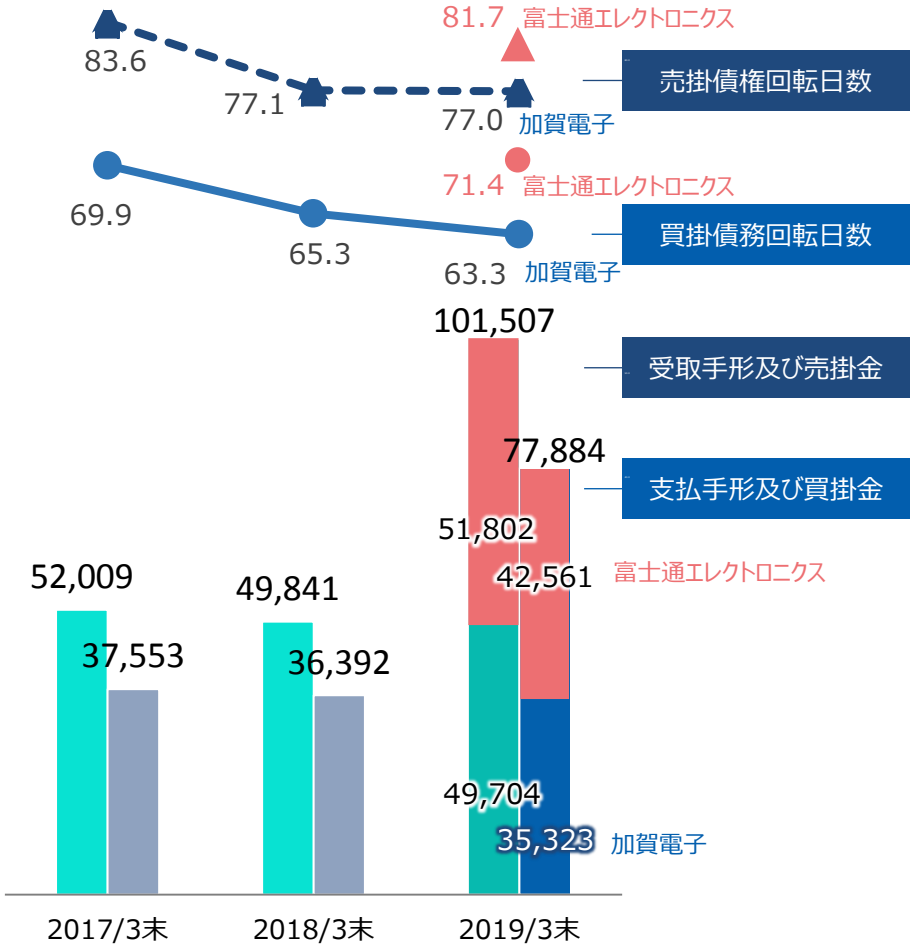
（単位：百万円、日）

棚卸資産



注： 在庫回転日数 ＝ 棚卸資産 ÷ 売上原価 × 365（日）

売掛金・買掛金

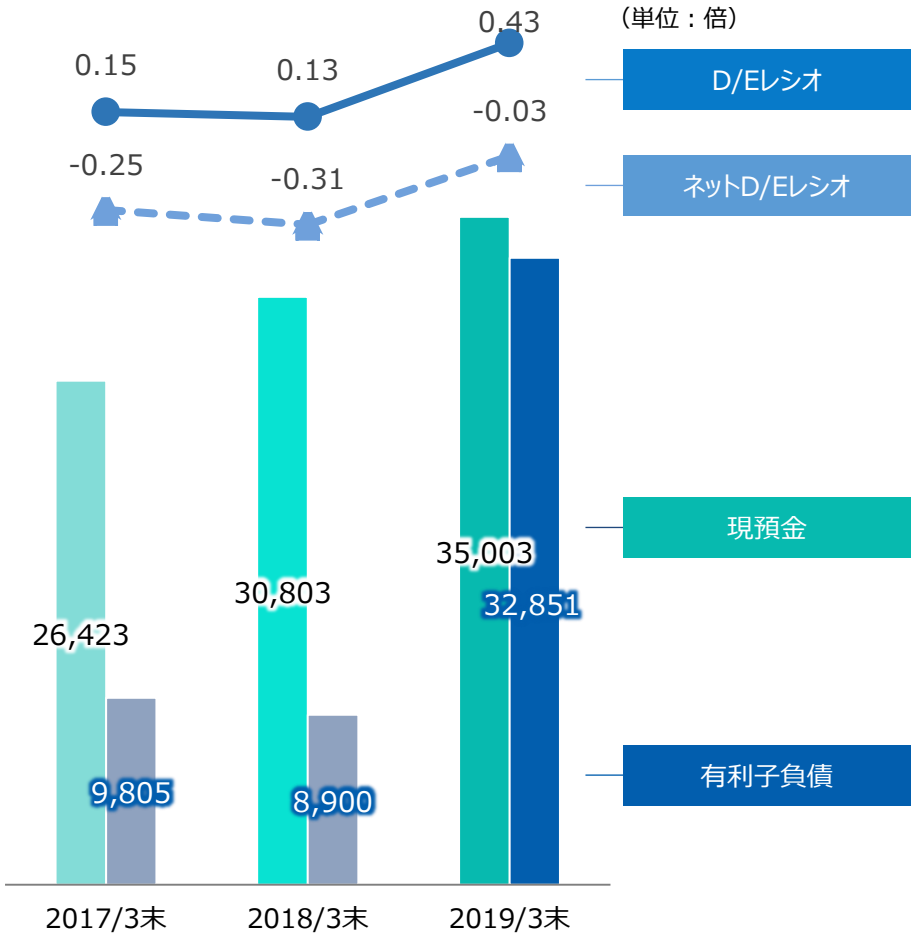


注： 受取手形及び売掛金については、電子記録債権を含めた金額となっております。
売掛債権回転日数 ＝ 受取手形及び売掛金 ÷ 売上高 × 365（日）
買掛債権回転日数 ＝ 支払手形及び買掛金 ÷ 売上原価 × 365（日）

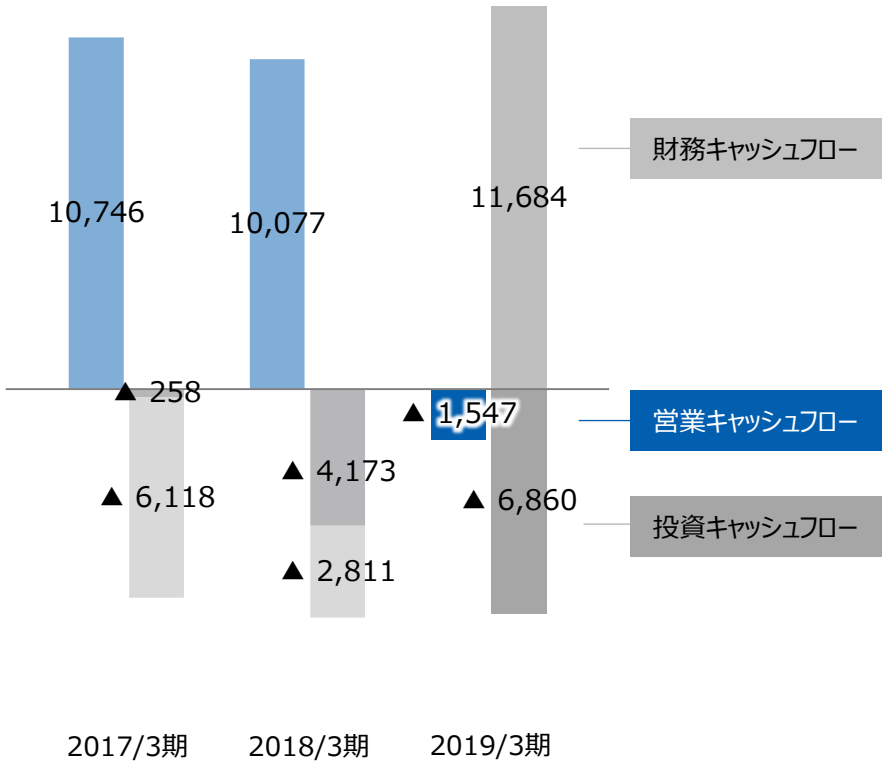
現預金・有利子負債/キャッシュフロー

（単位：百万円）

現預金・有利子負債



キャッシュフロー



注： D/Eレシオ　＝ 有利子負債 ÷ 自己資本
　　ネットD/Eレシオ ＝（有利子負債－現預金） ÷ 自己資本

キャッシュフローに関する補足説明

富士通エレクトロニクス子会社化に伴い、2019年3月期営業キャッシュフローが一時的に支出が増加も、2020年3月期には反動を見込む。

（単位：百万円）

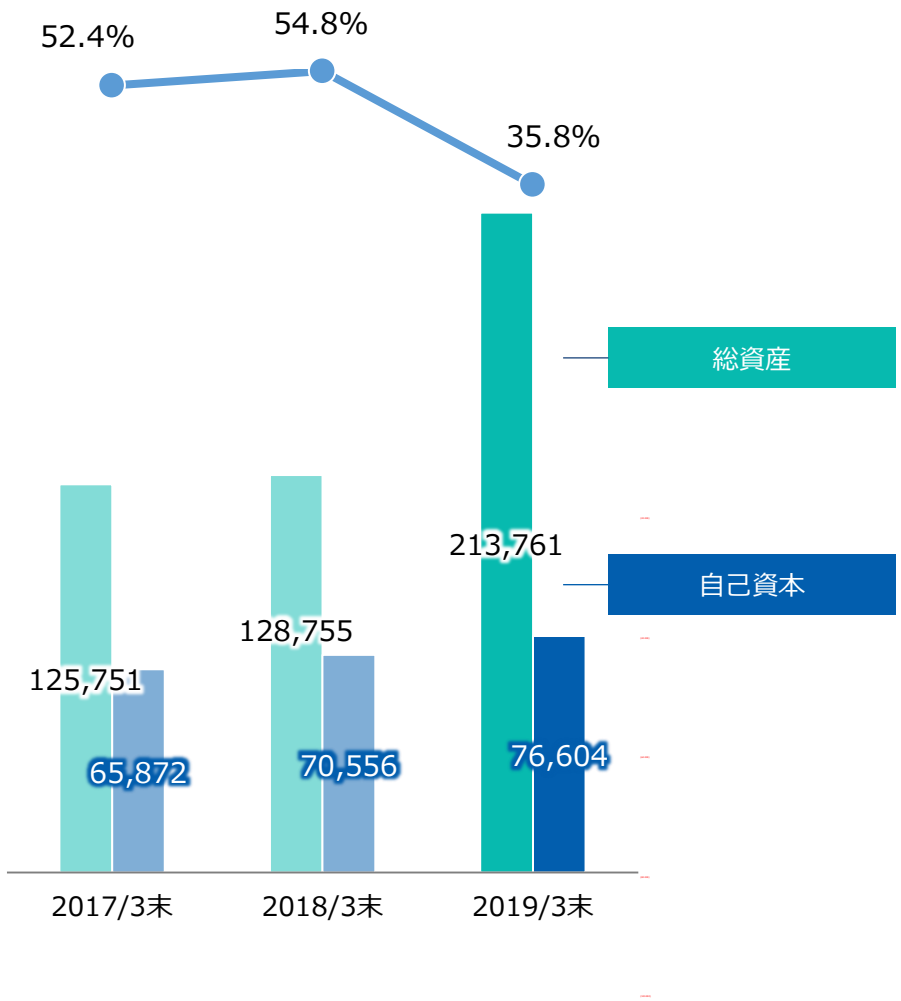
	主な変動項目	2018/3期	2019/3期	
営業活動によるキャッシュフロー	● 税引き前当期純利益	9,300	9,649	
	● 負ののれん発生益	－	△2,164	・・・①
	● 売上債権の増減額（△は増加）	2,076	△1,152	・・・②
	● たな卸資産の増減額（△は増加）	△226	△2,145	・・・③
	● 仕入債務の増減額（△は減少）	△1,101	△6,746	・・・④
	● 未収入金の増減額（△は増加）	1,087	△207	
	● その他	△1,059	1,218	
	営業活動によるキャッシュフロー	**10,077**	**△1,547**	

主な要因		
	① 負ののれん発生益	➡ 富士通エレクトロニクス70%株式取得による
	② 売上債権の増加	➡ うち富士通エレクトロニクス連結化により△1,040
	③ たな卸資産の増加	➡ 主にはEMSにおける顧客在庫調整、販売増への対応
	④ 仕入債務の減少	➡ うち富士通エレクトロニクス連結化により△5,192

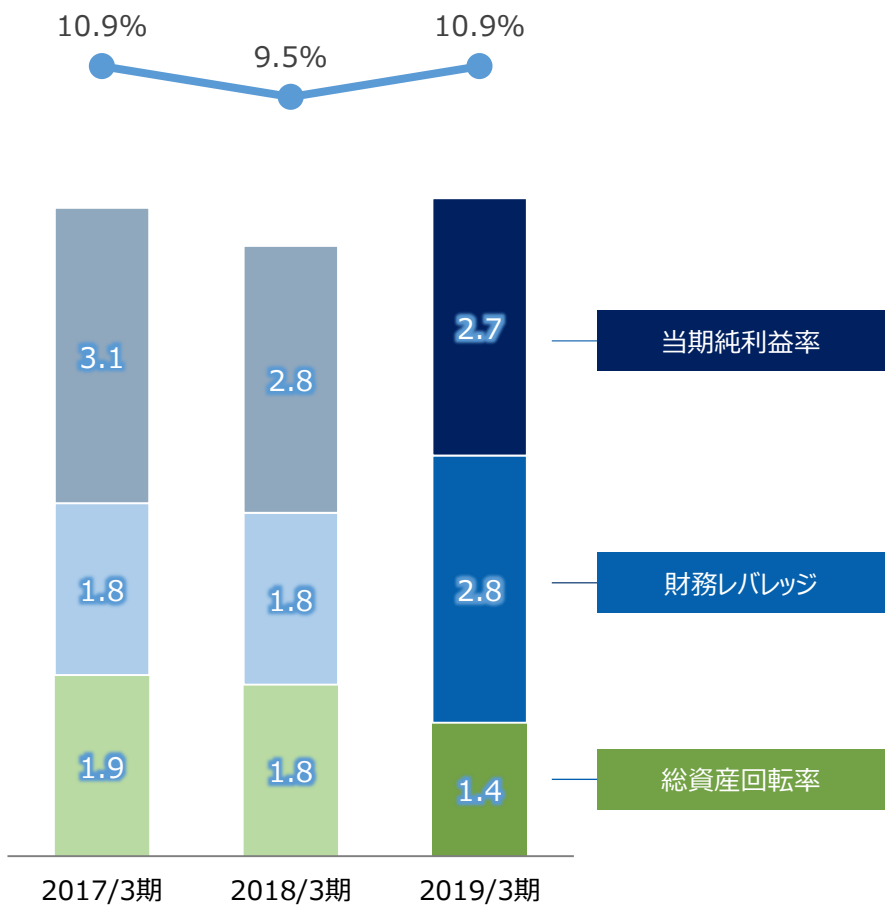
経営指標：安定性・効率性

（単位：百万円）

自己資本比率



ROE（自己資本利益率）



2020年3月期業績予想　サマリー

2020年3月期見通し	● グループ全体として、**先行き不透明な内外情勢を慎重に織り込む** ● 富士通エレクトロニクスは、**大口商権解消リスク**を織り込み、減収減益の見通し ● 当期純利益は、**前期計上の「負ののれん代」「税軽減」なくなり**反動減
主なセグメントの環境認識	● 電子部品事業：**中国関連の減速を懸念**するも、「車載」中心に拡販継続 ● EMS事業　：海外新工場では、**「車載」「空調」向けに需要増**見込む ● CSI事業　：**住宅向け家電販売ビジネスは、需要減続く**見通し
株主還元	● 配当方針：配当性向25%～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する ● 現時点の業績見通しを踏まえ、**年間60円(配当性向32.9%)**を予定

新中計スタートに伴うセグメント開示に関して

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、**新中計に沿ったセグメントによる任意開示**を行う

現行セグメント（制度会計）		中計セグメント（管理会計）	
電子部品事業	**部品販売ビジネス** ● 半導体販売 ● 一般部品販売 ● 各種デバイス販売	**電子部品事業**	● 半導体販売 ● 一般部品販売 ● 各種デバイス販売
	EMSビジネス ● 電子機器の製造受託サービス	**EMS事業**	● 電子機器の製造受託サービス
情報機器事業	● PC・PC周辺機器販売 ● 家電製品・照明器具販売 ● 写真・映像関連商品販売	**CSI事業**	● PC・PC周辺機器販売 ● 家電製品・照明器具販売 ● 写真・映像関連商品販売
ソフトウェア事業	● CG映像・ソフトウェアの制作	**その他事業**	● CG映像・ソフトウェアの制作 ● アミューズメント関連商品販売 ● 電子機器の修理・サポート ● スポーツ用品販売
その他事業	● アミューズメント関連商品販売 ● 電子機器の修理・サポート ● スポーツ用品販売		

2020年3月期　通期業績予想

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	
	実績	予想	前年比
売上高	292,779	430,000	46.9%
売上総利益	35,546	46,500	30.8%
同利益率（%）	12.1%	10.8%	
販売費及び一般管理費	27,976	39,500	41.2%
営業利益	7,570	7,000	-7.5%
経常利益	7,859	7,000	-10.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,014	5,000	-37.6%
EPS（1株当たり当期純利益）	292.07	182.17	
ROE	10.9	6.4	-

2020年3月期　セグメント別通期業績予想

（単位：百万円）

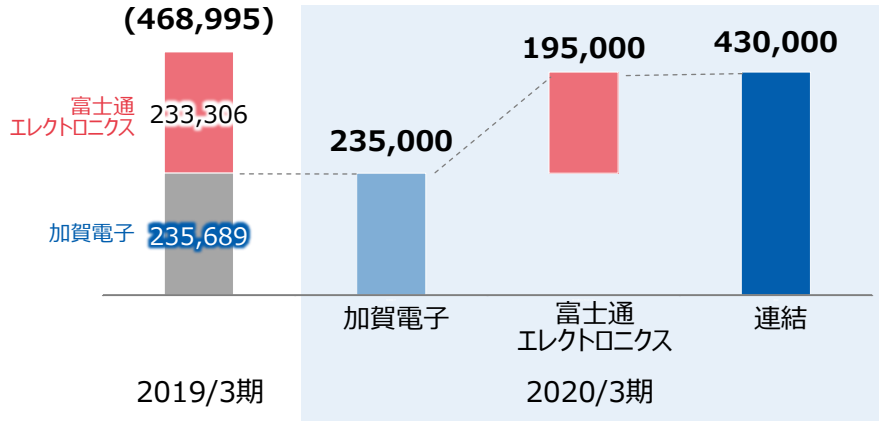
		2019/3期 実績	2020/3期 予想	前年比
電子部品	売上高	145,042	282,000	94.4%
	セグメント利益	2,278	2,200	-3.4%
EMS	売上高	89,481	95,000	6.2%
	セグメント利益	2,667	2,800	5.0%
CSI	売上高	44,344	40,000	-9.8%
	セグメント利益	1,906	1,500	-21.3%
その他	売上高	13,912	13,000	-6.6%
	セグメント利益	554	500	-9.7%
合計	売上高	292,779	430,000	46.9%
	セグメント利益	7,570	7,000	-7.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2020年3月期業績予想　富士通エレクトロニクス　グループ会社化の影響

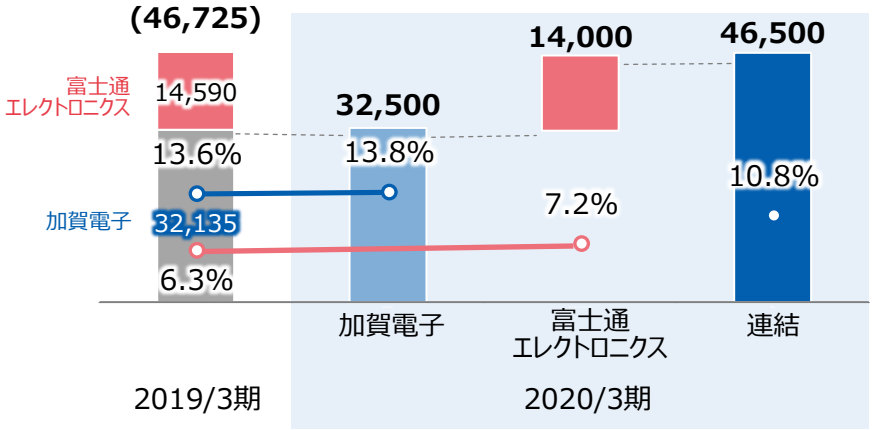
売上高

先行き不透明な事業環境を踏まえ、慎重な売上見通し



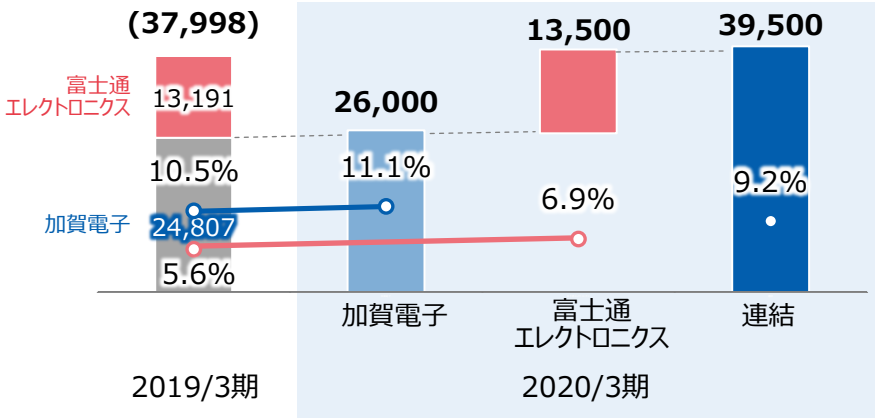
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子は前年並み、富士通エレクトロニクスは1pt利益率改善



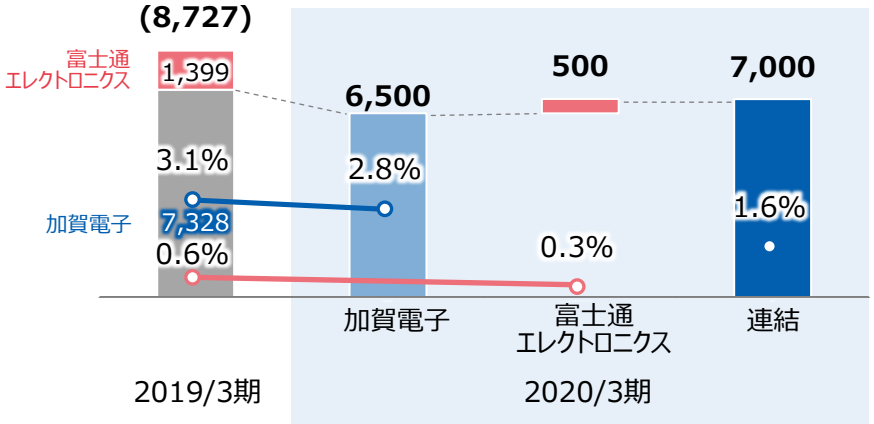
販管費 / 販管費率

新工場立上げ、IT関連など両社ともに費用増を見込む



営業利益 / 営業利益率

富士通エレクトロニクスの利益寄与は未だ限定的



※単位：百万円、（　）内は単純合算

加賀電子グループの成長シナリオ
中期経営計画　2021　アウトライン

（2018年11月6日公表）

加賀電子株式会社
代表取締役社長　門　良一

「利益重視の経営」の確立・定着を通して

「中期経営計画 2021（2019 – 2021）」 の位置付け

自立的成長
＋
更なる
M&Aの挑戦

加賀電子
グループ
＋
富士通
エレクトロニクス

“グローバル競争に勝ち残る企業“を目指す

1兆円

5,000億円

“我が国業界No.1企業”の実現へ

売上 UP

商社ビジネスの
量的拡大

商社ビジネスの拡大を
EMSビジネスの成長につなげる

利益率 UP

EMSビジネスによる
質的向上

EMSビジネスの
更なる拡充

海外ビジネスの
強化・拡大

（売上高）

中期経営計画 2021（2019 – 2021）
①収益基盤の強化　②経営基盤の安定化　③新規事業の創出

中長期ビジョン

「中期経営計画 2021（2019 – 2021）」　基本方針

	重点課題
1 収益基盤の強化	時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、**高い成長性及び収益性が見込める市場に注力**、収益基盤の強化を図る ・成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」 ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大
2 経営基盤の安定化	富士通エレクトロニクス グループ会社化後の**効率性・財務健全性の早期改善**に向けて経営基盤の安定化を図る ・グループ横断的なコスト削減施策の継続 ・組織体制整備によるグループ経営の効率化推進 ・コーポレートガバナンスの強化、次代を担う人財の育成
3 新規事業の創出	**外的環境変化への耐性強化**のため、自社リソース及びM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る ・「社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス」、「素材ビジネス」への取り組み ・ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進 ・M&Aの積極的な活用

「中期経営計画 2021 （2019 – 2021）」 経営目標

	2018年度 実績	2019年度 予想	2021年度 経営目標
売上高	2,928億円	4,300億円	5,000億円
営業利益	76億円	70億円	130億円
ROE	10.9%	6.4%	8.0%以上

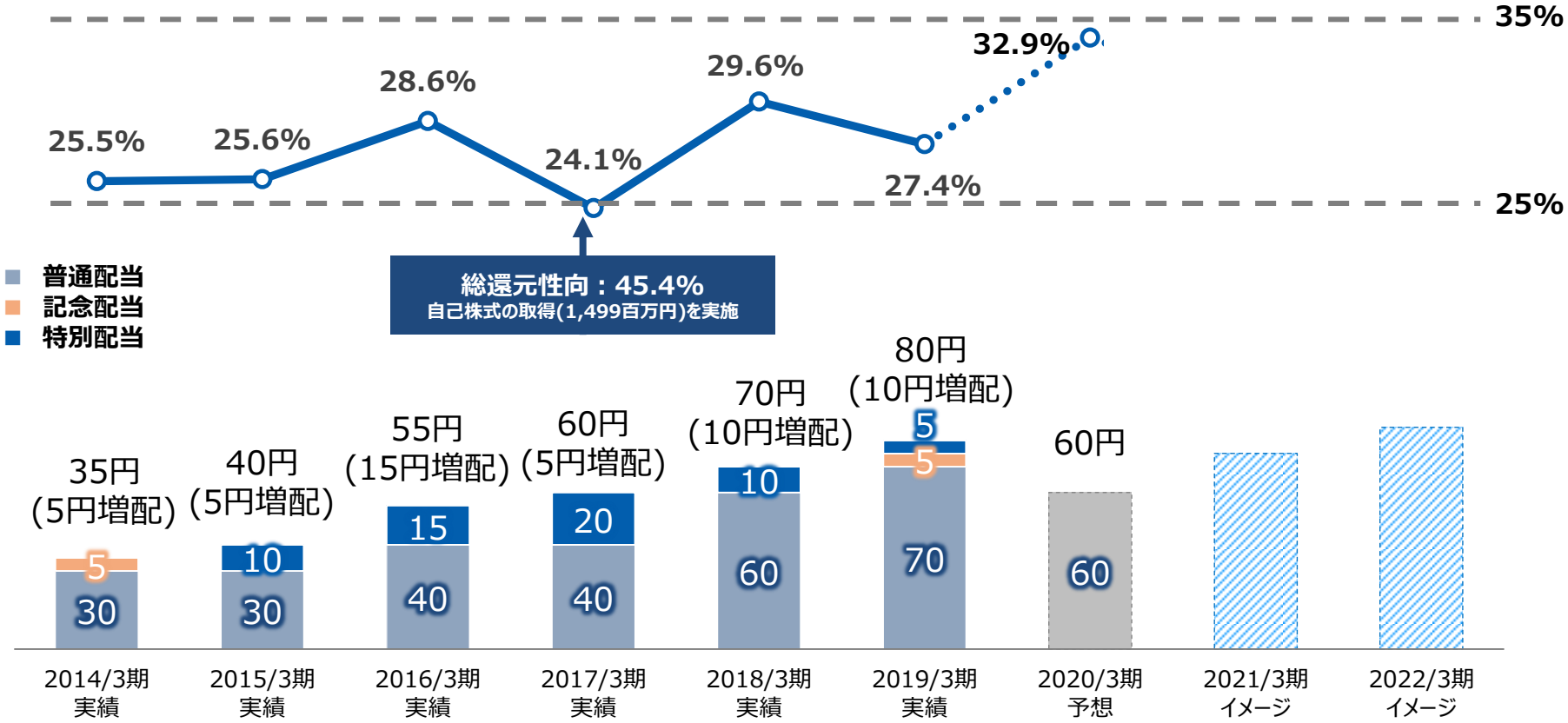
為替レート

・計画の前提： US$1.00＝￥110

株主還元の考え方

利益配分に関する基本方針

- **連結配当性向25～35%**を確保しつつ、**安定的な配当**を実施する。
- 将来成長に資する**事業投資・設備投資、M&A**等に活用する。
- **自己株式の取得**は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。

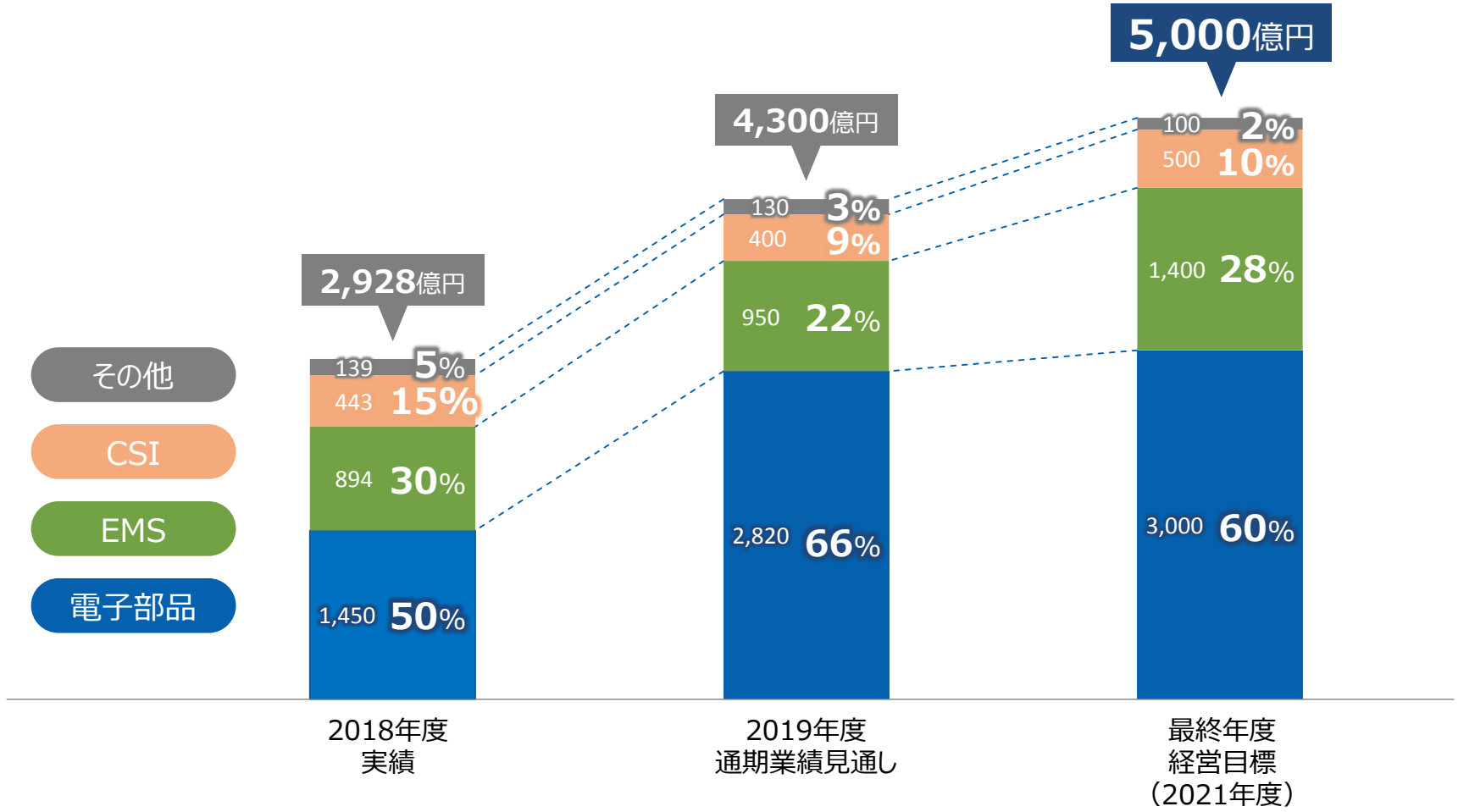


参考情報

＜参考＞事業ポートフォリオの考え方

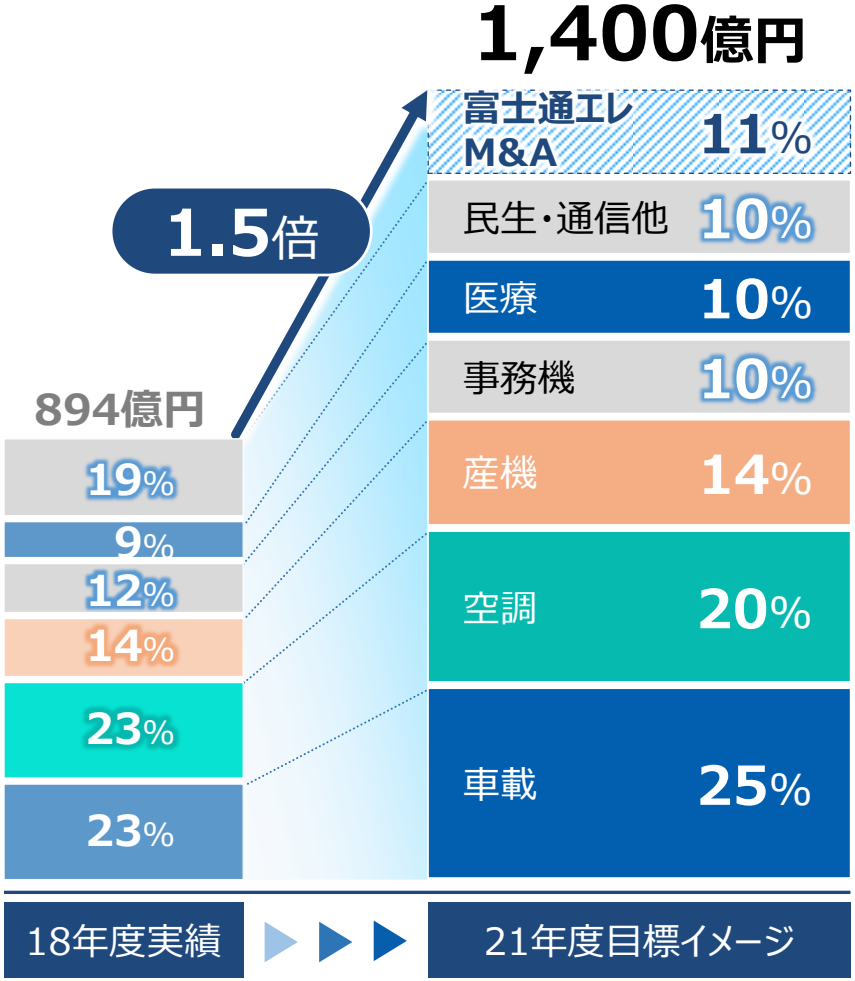
新中計では従来の開示セグメントを見直し、以下の4分類への組替えを実施。

売上高構成比のイメージ



＜参考＞ EMSビジネスの成長シナリオ

「車載」「産業機械」「空調」医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに、**18年度比1.5倍の事業規模**へと非連続な拡大を目指す



ポイント

- オーガニック成長
- 富士通エレクトロニクスのEMSシフト
- 更なるM&A

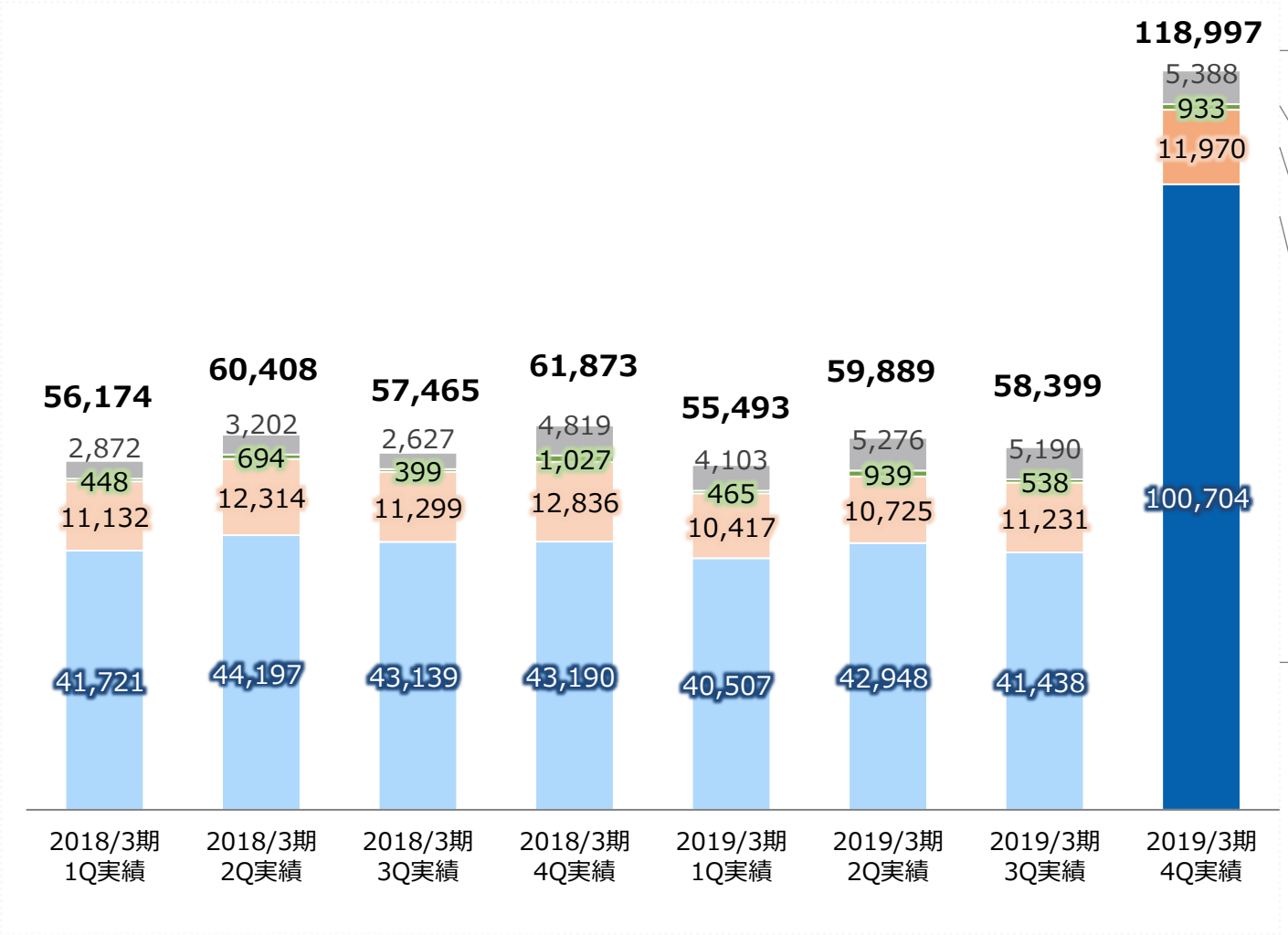
- 中国・アセアン・欧州での既存生産能力に加え、新設のベトナム・メキシコ・トルコ・インド各拠点の本格寄与により、「車載」「産機」「空調」「医療」の成長分野で事業拡大。

- 富士通エレクトロニクスが持つ有力顧客に対して、「キーデバイス+EMS」のアプローチを展開する。
- EMSビジネスの更なる規模拡大を目指し、国内外で新たなM&A機会に挑戦する。

＜参考＞事業部門別業績　四半期推移①

（単位：百万円）

売上高



連結合計
前年同期比　：**+57,123**
直前期比　　：**+60,597**

その他
前年同期比：　**+568**
直前期比　：　**+197**

ソフトウエア
前年同期比：　**▲93**
直前期比　：　**+394**

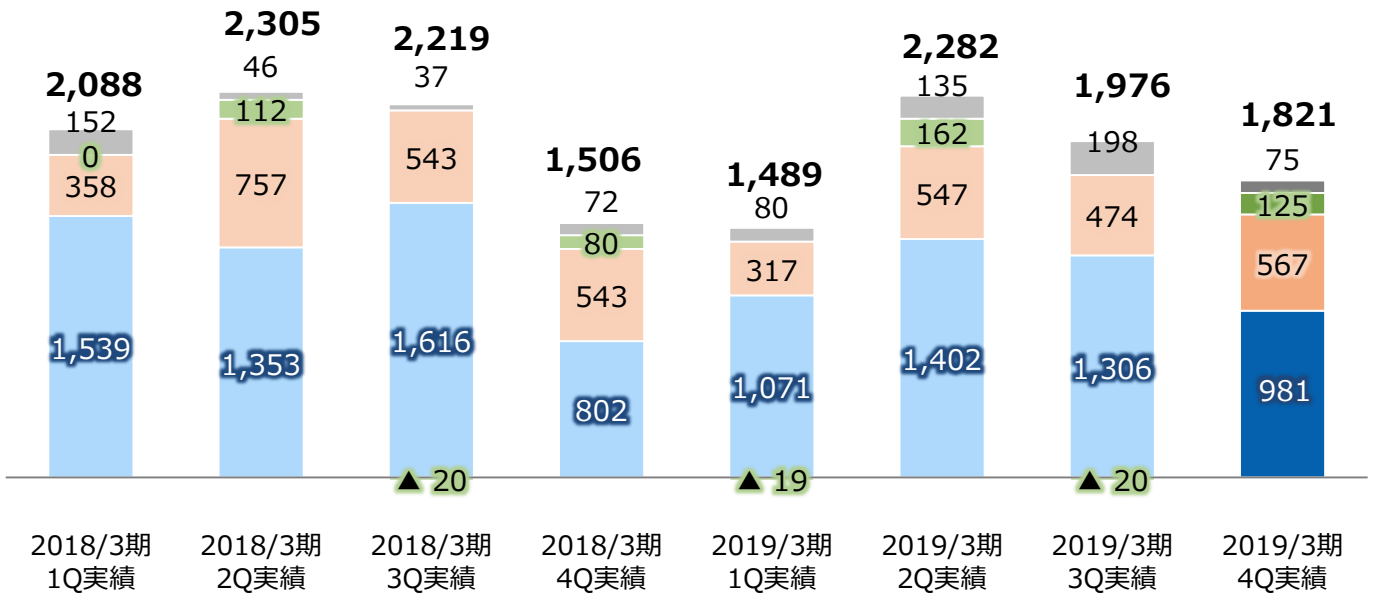
情報機器
前年同期比：　**▲866**
直前期比　：　**+739**

電子部品
前年同期比：**+57,514**
直前期比　：**+59,266**

＜参考＞事業部門別業績　四半期推移②

（単位：百万円）

営業利益（セグメント利益）



連結合計
前年同期比 ： **＋315**
直前期比 ： **▲155**

その他
前年同期比 ： **＋2**
直前期比 ： **▲123**

ソフトウエア
前年同期比 ： **＋44**
直前期比 ： **＋146**

情報機器
前年同期比 ： **＋24**
直前期比 ： **＋92**

電子部品
前年同期比 ： **＋178**
直前期比 ： **▲324**

注： セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

＜参考＞為替レート

	2018/3期 実績（円）	2019/3期 実績（円）	1%変動による影響額（百万円） 売上高	1%変動による影響額（百万円） 経常利益	2020/3期 前提（円）
米国ドル	110.85	110.91	827	26	110.00
タイバーツ	3.36	3.43	225	12	3.40
人民元	16.63	16.72	118	6	17.00
香港ドル	14.20	14.14	162	3	14.00

＜参考＞新セグメント別取扱商品・サービス

電子部品事業	● 半導体(汎用品・カスタム品)の販売 ● 一般部品(コンデンサ、コネクタ、ケーブル、スイッチなど)の販売 ● LCD、LED、各種デバイスの販売、など
EMS事業 (Electronics Manufacturing Service)	● 各種電子機器の製造受託(電装基板実装～完成品組立)サービス、及びそれに伴う設計、開発
CSI事業 (Consumer Solution Information)	● パソコン及びPC周辺機器の販売 ● 各種家電製品・照明器具、写真・映像関連商品の販売、など
その他事業	● 各種CG映像、ソフトウェア制作 ● アミューズメント関連商品の企画・開発・製造・販売 ● エレクトロニクス機器の修理・サポート ● スポーツ用品の卸・小売り、など

＜memo＞

＜memo＞

＜memo＞

＜memo＞

『すべてはお客様のために』

加賀電子株式会社

問合せ先：IR･広報室
〒101-8629　東京都千代田区神田松永町20番地
TEL:03-5657-0106
FAX:03-3254-7133
E-mail：webmaster@taxan.co.jp
https://www.taxan.co.jp

■　将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および
合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■　本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入　　比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入